

高野清玄先生選評



下村佳風 推選
 明るく伸びやかな線が印象的な作品である。細線が滑らかに紙面を走り描かれる。そこに破筆や渴筆が添えられて作品に奥行きを作る。淡墨が優しく包み込み佳。

榎本美浩 推選
 木簡隸の筆意を基調にして軽いタッチで筆が躍動している。筆毛の先端が紙に引っかかり飛び跳ねている。爪弾かれて細線が表れる。そのリズムに引き込まれる。

坂本千陽 推選
 斜画は動きを表現する。横画が右上がり左上がりとは好き勝手に変化し動きを見せる。そこに線の細太、潤渴の変化が加わり立体感ある作となる。各種技法満載。

増子壽慈 推選
 滲みが潤いである。全体を通してしっとり艶やかである。隸意を基調に丸みのある温もり感じる線。鷗亭先生を参考に自己を加え発展させ独自の境地が広がる。

武良霜伯先生選評



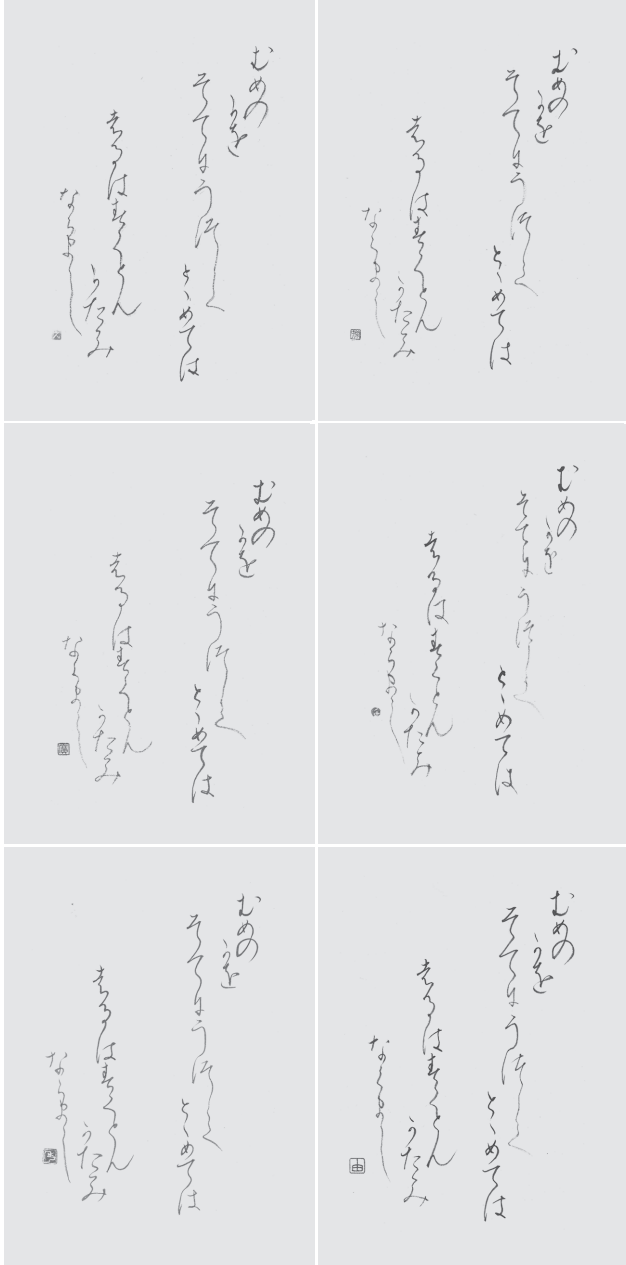
大根田 静波 推選
力強い線が渾然としており、観る者を引き付けています。鋭い入筆、抜筆の妙を、随所で如何なく発揮して迫力満点です。最優秀推選作品に相応しい快作です。

村上 春風 推選
原帖の特徴を良く見て捉えており、根本的な書制作態度に先ずは目を引かれました。春風さんの雅号と相俟って、初春の風を運んで頂き有難うございました。

中山 河羽 推選
半折一行の難しい課題を、よく纏めて作品の作り方等章法が素晴らしいです。穏やかな墨色と和画仙の融合が上手く解け合い、落ち付いた心の安らぐ作品です。

田邊 紗繪 推選
紙面にピタリと六文字を配し章法良く、安定感抜群です。横画の筆の切り込みや筆遣い等々自由自在で、腕の確かさを感じました。更なる輝きを期待しています。

露崎柱子先生選評



佐々木優子先生選評



田口恵美 七段
行の流れ良く、紙面に上手く収まっています。書き出しと墨継ぎの量をやや多くすると、潤渴の変化の美しい更に印象的な作品となるでしょう。

片岡廣美 準七
前半はリズム良く書かれています。後半はやや惜しい。前半のリズムを大切に、じつくりと運筆してみましよう。印は少し離すと落ち着きます。

安藤秀苑 準五
素直な清々しさのある筆線が魅力です。潤渴の変化がもう少しあると、一段上の作になるでしょう。印が少し大きいので、やや離すと更に佳に。

仲山栄子 師範
勢いのある筆線で、墨色の変化も自然な存在感のある作品です。特に前半は紙面にビタリと収まっていて心地良い。日頃の学びの深さを感じます。

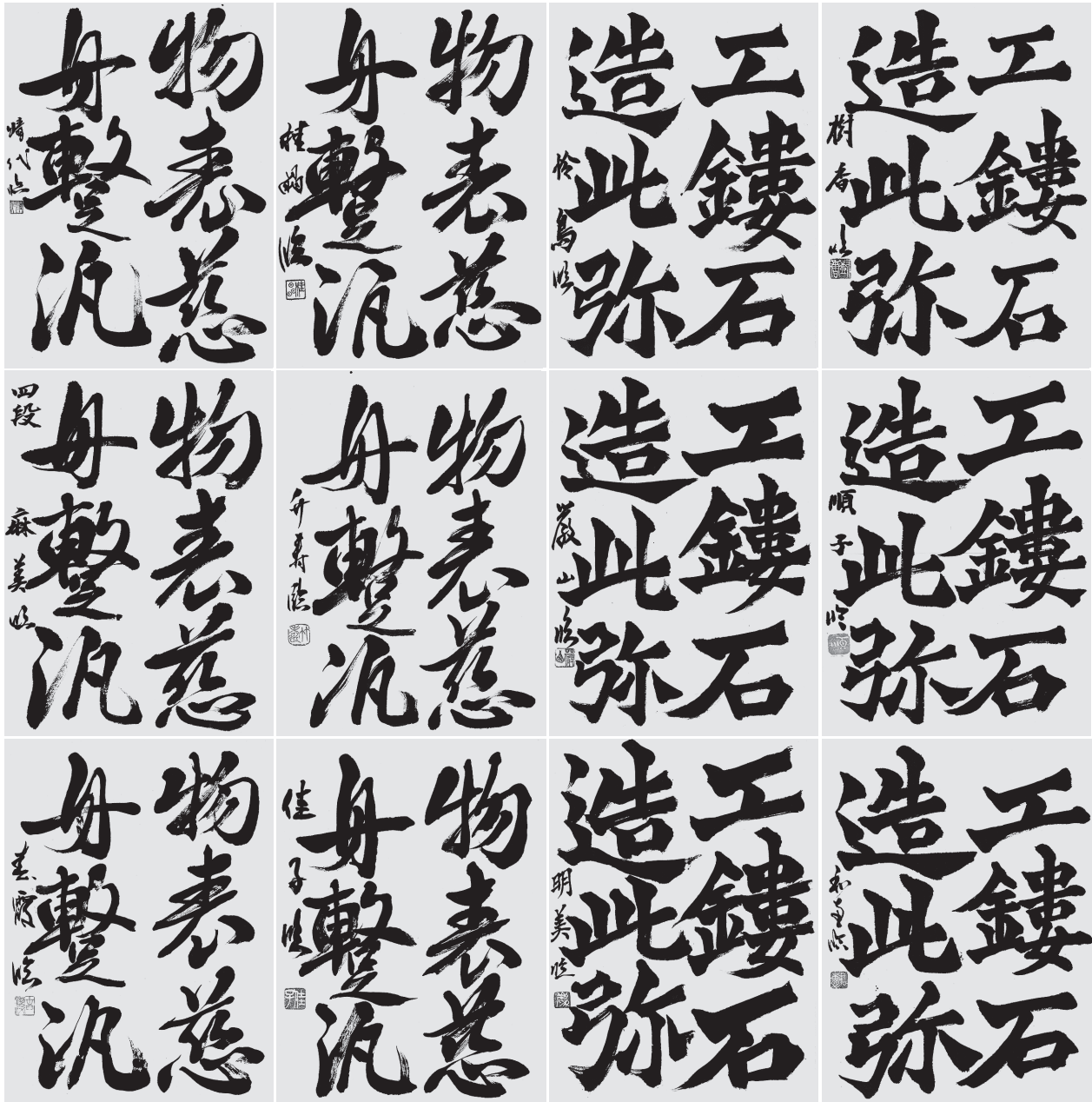
坂本千陽 師範
潤渴のある、リズムミカルな連筆の作品です。渴筆部分の筆の開閉も良く、高野切一種の特徴である美しい墨色の変化のある作品となりました。

中村由美子 八段
伸びやかな連筆が魅力です。楽しく書いている様子が窺えます。印をやや小さく、潤渴の変化がもう少しあると更に趣ある作になるでしょう。

吉田花鶴 推選
ダイナミックに抑揚をつけた筆運び、見事です。自然な墨色の変化、紙にくい込む渴筆の強さに力量を感じます。潤筆と渴筆の響き合いの美しい作品です。

小林悦子 推選
落筆高く、深い呼吸で緩急つけて筆の開閉自在に、心地良く軽やかに書かれた作。運筆、懐深く、大らかで流れの美しさが際立っています。

若林久美子先生選評



成瀬樹香 師範
牛轡造像記の伸びやかさや端正な美しさにフォーカスした秀作。リズムミカルの運筆の中に繊細さがあり、線質も温かく上質な臨書となった。

田谷怜鳥 準六
しなやかな線を持ち味にして、原帖の表情を研究している。起筆の勢い、張り詰めた細線と紙面を捉えた太線とのリズムは見事です。

堀 桂晶 師範
どっしりと構え、貫禄充分。筆の揺らし方、間の取り方、緩急のつけ方など申し分ない。更なるチャレンジを大いに期待します。

比留間晴代 五段
温かな線が要素ごととに紙面に食い込み、優しい線とのせめぎ合いが楽しいリズムを生んでいる。少々表現過多な部分もあるが、創作力有りで佳。

加藤順子 準八
起筆や字形をしっかり研究して、研ぎ澄まされたような鋭さや、力強さ、緊張感ある引き締まった形など細部までこだわった秀作。

長野巖山 二段
正面から斬りこんだシャープな線、字形ともに爽快です。正確な運筆ながら勢いよく繰り出される線に激みがなく、重厚感もある魅力的な作。

石橋竹寿 八段
優しい筆致で原帖の動きや結体の特徴をよく観察している。表現力が巧みで、筆圧の変化や疎密のつけ方など心憎い。墨色も美しい傑作。

近藤麻美 四段
視点が高く、全体を見据えているのでスケールの大きい臨書になりましたね。滑らかに紙面を走る優しい線も魅力的。湯筆も研究してみて。

大田和恵 七段
丁寧な運筆で起筆の角度や左右の払いにまで気持が行き届いている真摯な作。少々慎重すぎる部分もあるか？湯筆など加えてみては？

小峯明美 準初
紙面から溢れんばかりの気迫！澀刺として清々しい。線質も円やかで温かく、魅力に溢れる作。他の造像記と書き比べる練習もしてみよう。

小浜佳子 準七
濃墨でゆっくり、丁寧に原帖の雰囲気表現している。肉厚で緩やかな線が静かに流れやってくる。落款位置も考慮しましょう。

野々村春霞 準四
筆者自身の持つ線質を存分に活かした快作。濃墨にゆったりと大きく筆を動かし穏やかな空気感が心地良い。大胆さも研究して表現の幅を。